ニュース専修
●「専修大学」ホームページ● http://www.senshu-u.ac.jp/
毎月１回15日発行
（定価一部90円）
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819（直）

主なニュース

司法試験、公認会計士試験合格者祝賀会を開催……②
寄稿「『黒人』大統領バラク・オバマ誕生～人種問題と歴史の視点から」
樋口映美文学部教授……③
「新百合ヶ丘」活性化に専大生のパワーが集結……⑦
石巻専修大学　坂田学長年頭の抱負、村井宮城県知事特別講義……⑧
北海道短大　新家学長年頭の抱負、学生部スキーツアー……⑨
「専大生のチカラ」ボランティア、学業に頑張る姿を紹介……⑩

テレホンサービス
（お知らせ・緊急連絡）
0180-994-994
本紙へのご意見をお聞かせください
koho@acc.senshu-u.ac.jp

大学入試センター試験利用前期入学試験
スカラシップ・全国入学試験
一般前期入学試験
出願受付中
入試トピックス
トピックス1
スカラシップ入学試験合格者には
授業料・施設費免除（4年間）
さらに、自宅外通学者には
年額60万円支給（4年間支給）
※これらの奨学金は、卒業後も返還の義務はありません。
トピックス2
2月12日（木）
1日の試験で複数学部・学科の受験が可能
全学部統一入学試験実施
※文学部を除く
トピックス3
ワンでい割引
同一試験日内の学部・学科・専攻を併願することで
受験料が割引
問い合わせ先
入学センターインフォメーション
［神田］☎03（3265）6677
［生田］☎044（911）0794

創立130年・2009新春にあたって

「大学改革の時代」の先頭に

学校法人専修大学理事長　専修大学長　**日髙　義博**

記念すべき創立130年の節目の年を迎えました。新春のお慶びを申し上げます。10月30日には、東京・ホテルニューオータニにおいて創立130年記念式典を行います。その間にもさまざまな記念事業が展開されますが、専修大学の歴史と伝統を再認識しながら、本学の有する大学力をパワフルに示していきたいと思います。

一世代を30年とするならば、創立150年の間は第5世代の期間ということになります。専修大学の歴史を振り返ってみると、ほぼ30年ごとに大きな節目があり、各世代ごとに果たすべき役割と課題がありました。第5世代の果たすべき役割は何か、現在の問題をどう解決し、次の世代に何を残すべきなのか、このことを常に意識しながら、実りある創立130年にしたいと思います。

「社会知性」さらに輝きを

創立者たちが教壇に立ち直接学生に熱き思いを伝えたのが、第1世代の時期です。いわば「専修学校の時代」です。第2世代は、初代学長の相馬永胤先生から第2代学長の阪谷芳郎先生に欅（たすき）が渡され、専門学校令から大学令に基づく大学へと移行し、かつ関東大震災後の再建から学徒出陣までの苦難の時期でした。第2世代は、「旧制大学の時代」を築きました。

第3世代は、戦後の焼け野原から出発し、欅を遂げた時期です。「新制大学への復興の時代」と言えます。この復興期に、母校に私財をすべて投じて陣頭指揮を執られた第5代総長今村力三郎先生の専修スピリッツを忘れてはなりません。第4世代は、専修大学の学生数が飛躍的に伸びた昭和30年代後半から平成10年頃までの時期です。この第4世代は、「大学拡張の時代」として捉えることができましょう。この時期における相馬勝夫（学長・総長）、川島正次郎（理事長・総長）、森口忠造（理事長・総長）の3先生による息の合った改革は、大学発展に大きな推進力を持ちました。昭和43年には専修大学北海道短期大学、平成元年には石巻専修大学が設置され、理系の分野にもウイングを広げました。昭和48年には神田校舎が全面改築され高層校舎が竣工しました。平成9年には、生田校舎に120年記念館として9号館が建築され、生田キャンパスのイメージを新しいものにしました。

そして、第5世代は、創立121年に当たる平成12年から創立150年の平成41年までの30年間ということになります。第5世代にあっては、18歳人口の激減にともなって「全入学時代」が到来し、しかもユニバーサル教育の段階に突入したことから、大学教育のあり方自体を見直さなければならない「大学改革の時代」です。厳しさを増す大学間競争を生き抜くためには、大学の個性と特色を明確にし、教育においても研究においても、現場に活力がなければなりません。

すでに、専修大学は、21世紀ビジョンとして「社会知性の開発」を掲げ、骨太の大学改革に取り組んでいます。このビジョンには、日本における私学の魁（さきがけ）としての気概が込められています。

創立130年を迎えた今年は、第5世代の趨勢（すうせい）を決する上で極めて重要な年です。今年の入学志願者数の動向は、現在の専修大学の総合力を示す、いわば「心臓の鼓動」でしょうし、懸案の新学部・新学科が平成22年4月からインパクトをもってスタートできるかは、今後の大学改革の鍵ですべきなのか、このことを常に意識しながら、実りある創立130年にしたいと思います。

創立者たちが教壇に立ち直接学生に熱き思いを伝えたのが、第1世代の時期です。いわば「専修学校の時代」です。第2世代は、初代学長の相馬永胤（たすき）先生から第2代学長の阪谷芳郎先生に欅が渡され、専門学校令から大学令に基づく大学へと移行し、かつ関東大震災後の再建から学徒出陣までの苦難の時期でした。第2世代は、「旧制大学の時代」を築きました。

第3世代は、戦後の焼け野原から出発し、欅を遂げた時期です。「新制大学への復興の時代」と言えます。この復興期に、母校に私財をすべて投じて陣頭指揮を執られた第5代総長今村力三郎先生の専修スピリッツを忘れてはなりません。第4世代は、専修大学の学生数が飛躍的に伸びた昭和30年代後半から平成10年頃までの時期です。この第4世代は、「大学拡張の時代」として捉えることができましょう。この時期における相馬勝夫（学長・総長）、川島正次郎（理事長・総長）、森口忠造（理事長・総長）の3先生による息の合った改革は、大学発展に大きな推進力を持ちました。昭和43年には専修大学北海道短期大学、平成元年には石巻専修大学が設置され、理系の分野にもウイングを広げました。昭和48年には神田校舎が全面改築され高層校舎が竣工しました。平成9年には、生田校舎に120年記念館として9号館が建築され、生田キャンパスのイメージを新しいものにしました。

そして、第5世代は、創立121年に当たる平成12年から創立150年の平成41年までの30年間ということになります。第5世代にあっては、18歳人口の激減にともなって「全入学時代」が到来し、しかもユニバーサル教育の段階に突入したことから、大学教育のあり方自体を見直さなければならない「大学改革の時代」です。厳しさを増す大学間競争を生き抜くためには、大学の個性と特色を明確にし、教育においても研究においても、現場に活力がなければなりません。

すでに、専修大学は、21世紀ビジョンとして「社会知性の開発」を掲げ、骨太の大学改革に取り組んでいます。このビジョンには、日本における私学の魁（さきがけ）としての気概が込められています。

創立130年を迎えた今年は、第5世代の趨勢（すうせい）を決する上で極めて重要な年です。今年の入学志願者数の動向は、現在の専修大学の総合力を示す、いわば「心臓の鼓動」でしょうし、懸案の新学部・新学科が平成22年4月からインパクトをもってスタートできるかは、今後の大学改革の鍵ですべきなのか、このことを常に意識しながら、実りある創立130年にしたいと思います。

創立者たちが教壇に立ち直接学生に熱き思いを伝えたのが、第1世代の時期です。いわば「専修学校の時代」です。第2世代は、初代学長の相馬永胤（たすき）先生から第2代学長の阪谷芳郎先生に欅が渡され、専門学校令から大学令に基づく大学へと移行し、かつ関東大震災後の再建から学徒出陣までの苦難の時期でした。第2世代は、「旧制大学の時代」を築きました。

第3世代は、戦後の焼け野原から出発し、欅を遂げた時期です。「新制大学への復興の時代」と言えます。この復興期に、母校に私財をすべて投じて陣頭指揮を執られた第5代総長今村力三郎先生の専修スピリッツを忘れてはなりません。第4世代は、専修大学の学生数が飛躍的に伸びた昭和30年代後半から平成10年頃までの時期です。この第4世代は、「大学拡張の時代」として捉えることができましょう。この時期における相馬勝夫（学長・総長）、川島正次郎（理事長・総長）、森口忠造（理事長・総長）の3先生による息の合った改革は、大学発展に大きな推進力を持ちました。昭和43年には専修大学北海道短期大学、平成元年には石巻専修大学が設置され、理系の分野にもウイングを広げました。昭和48年には神田校舎が全面改築され高層校舎が竣工しました。平成9年には、生田校舎に120年記念館として9号館が建築され、生田キャンパスのイメージを新しいものにしました。

そして、第5世代は、創立121年に当たる平成12年から創立150年の平成41年までの30年間ということになります。第5世代にあっては、18歳人口の激減にともなって「全入学時代」が到来し、しかもユニバーサル教育の段階に突入したことから、大学教育のあり方自体を見直さなければならない「大学改革の時代」です。厳しさを増す大学間競争を生き抜くためには、大学の個性と特色を明確にし、教育においても研究においても、現場に活力がなければなりません。

すでに、専修大学は、21世紀ビジョンとして「社会知性の開発」を掲げ、骨太の大学改革に取り組んでいます。このビジョンには、日本における私学の魁（さきがけ）としての気概が込められています。

創立130年を迎えた今年は、第5世代の趨勢（すうせい）を決する上で極めて重要な年です。今年の入学志願者数の動向は、現在の専修大学の総合力を示す、いわば「心臓の鼓動」でしょうし、懸案の新学部・新学科が平成22年4月からインパクトをもってスタートできるかは、今後の大学改革の鍵です。生田校舎においては、一昨年4月に130年記念館として10号館が立ち上がり、今年1月14日には向ケ丘遊園駅前にサテライトキャンパスがオープンしました。新しい時代に対応するためのキャンパス整備は、まだ緒についたばかりです。神田校舎および生田校舎の総合的なキャンパス構想を練り上げ、有機的かつ段階的にキャンパスを整備していかなければなりません。

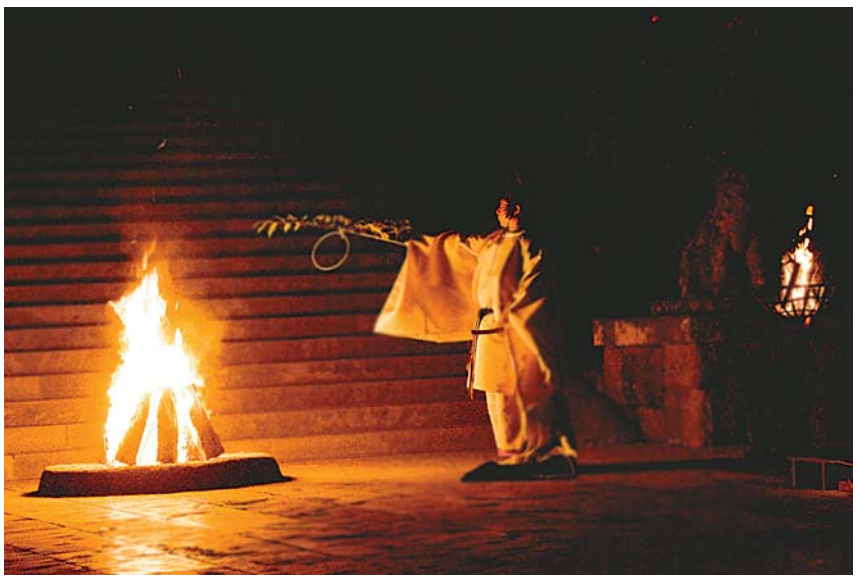
石巻専修大学においては、地域に根ざした大学としての取り組みが着実に実を結んでいかなければなりませんし、専修大学のウイングを広げるという第4世代の志を生かさなければなりません。

北海道短期大学にあっては、極めて厳しい状況にありますが、改革推進の3カ年計画の真っただ中にあり、関係各位の一層の奮闘が望まれます。

今年は、何事においても転機の1年です。学生、教職員はもちろんのことととして、校友会ならびに育友会の皆さんとも一体となり、創立130年を祝うと共に、オール専修の叡智（えいち）を結集して「専修大学ここにあり」という気概を示したいと思います。

800年前の御神楽を楽しむ
王朝文学と宮中行事
鎌倉で文学部が公開シンポジウム

文学部公開シンポジウム「王朝文学と宮中行事」が12月16日、鎌倉市の鶴岡八幡宮の直会殿（なおらいでん）で行われた。会場を埋めた聴衆350人は、小山利彦文学部教授ら4講師の講演を聴講したあと、同境内の舞殿北庭に設けられた特別席で、800年前から伝わる〝宮中行事〟御神楽を拝観した。



▲　かがり火に映える「人長舞」

▶　講演する小山教授。右端は司会の西條教授

シンポジウムは西條勉文学部教授の司会、荒木敏夫副学長と同八幡宮の吉田茂穂宮司のあいさつに続き、以下の講師が講演した。

▽日向一雅・明治大学教授「源氏物語と宮中行事」
▽廣田收・同志社大学教授「説話文学と宮中行事」
▽河添房江・東京学芸大学教授「唐物と宮中行事」
▽小山利彦教授「王朝と御神楽」

小山教授は「御神楽とは、民間で行われる里神楽に対し、宮中の賢所で行われる神楽を指す。寛弘2（1005）年、宮中の内侍所の火災により神鏡が消失。皇祖神天照大神に対する非礼となるので大騒動となった。神に対する不敬を償うため、御神楽奉奏が行われたことから内侍所御神楽が成立した」と解説。会場からのさまざまな質問にも答えた。この御神楽は『源氏物語』の「松風」巻や「若菜下」巻にも登場している。

シンポを終え、夕刻の「御神楽奉奏」は1時間にわたって行われた。辺りの人工の明かりがすべて消された後、4カ所にかがり火がたかれた。みやびやかな神楽が奏でられる中、輪賢木を手にした人長（楽人の長）の仕種による「其駒」などが奉奏され、「人長舞」などが披露された。厳かで神聖な世界が広がった。

※鶴岡八幡宮の御神楽

源頼朝が源氏旗揚げの際に、同八幡宮を由比郷鶴岡から現在の地へ遷祀したが、火災で社殿が焼失。頼朝は直ちに復興。建久2（1191）年11月21日（新暦の12月16日）に行われた「遷宮の秘儀」が発端となる。京都から音楽を奏する伶人（れいじん）、多好方（おののよしかた）を招き奉仕させた。現在も往時の出来事が偲（しの）ばれる神事として、毎年12月16日に行われる。一般に公開されるようになったのは1980年から。